



市議会だより

3月定例議会 5月臨時議会

発行・下田市議会 編集・議会だより編集委員会 〒415-8501 下田市東本郷1丁目5番18号 ☎0558(22)2220〈直通〉



第70回黒船祭 下田条約調印式の再現劇

議長に増田清氏(再任)
副議長に土屋忍氏



議長 増田 清氏



副議長 土屋 忍氏

このたび、はからずも議員皆様の温かいご推挙によりまして、議長の要職を再びおあずかりすることになりました。

議会は、市民の代表として、地方自治法に基づき予算、関係条例等が適正に執行されているか市民に代わって監督するのが責務であるとともに、市長に対し政策の提言も重要なことでもあります。市民の皆様が認識されております低迷している市内経済の活性化等、重要な課題について今後も、その施策を要請していく所存であります。

議長として、相手の立場を理解し、物事に取り組み和を大切にしながら、不偏不党・公平無私の立場を堅持した議会運営に心がけ、常に市民の立場に立つて議会の責務を果たすとともに、下田市のため、一意専心に取り組んでいく覚悟であります。市民の皆様方のご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます就任の挨拶といたします。

3月定例議会日程

| | | |
|--------|-----|---|
| 5日 | 本会議 | 開会 会期の決定 会議録署名議員の指名 諸般の報告 議案審議(質疑・討論・採決又は委員会付託) |
| 6日 | 委員会 | 付託議案審査 |
| 9日 | 本会議 | 委員長報告(質疑・討論・採決) 平成21年度施政方針 一般質問 |
| 10日 | 本会議 | 一般質問 |
| 11・12日 | 本会議 | 議案審議(質疑・委員会付託) |
| 13-23日 | 委員会 | 付託議案審査 |
| 24日 | 本会議 | 委員長報告(質疑・討論・採決) 閉会 |

5月臨時議会日程

| | | |
|-----|-----|---|
| 7日 | 本会議 | 開会 会期の決定 会議録署名議員の指名 諸般の報告 議案審議(質疑・討論・採決又は委員会付託) |
| 8日 | 委員会 | 付託議案審査 |
| 11日 | 本会議 | 委員長報告(質疑・討論・採決) 常任委員会委員及び議会運営 委員会委員の選任について 閉会 |

三月定例議会は、三月五日から二十四日までの二十日間にわたり開催されました。

本議会は平成二十一年度の予算議会です。予算全般としては経済対策のための特別交付金が増った予算組みとなっております。

また介護保険料が引き下げられ、市においては全国で三番目に低い料金となりました。また九日には、市長の施政方針演説がありました。専決処分として、子育て応援特別手当と定額給付金の執行準備予算が承認されました。

三月定例議会

五月臨時議会は五月七日から十一日までの五日間にわたり開催されました。

主な議案は、緊急雇用対策交付金の使用用途やプレミアム付商品券、住宅リフォーム補助金などが検討し承認されました。

また十一日には、増田清議長、大黒孝行副議長の辞職願いに伴ない正副議長選挙が行なわれ、議長には増田清議員が再任され、副議長には土屋忍議員が当選されました。また、常任委員会委員長、議会運営委員長、選任等を行ないました。

五月臨時議会

総務文教委員会



委員 土屋勝利 (3) 委員 増田 清 (3) 委員 土屋誠司 (5) 委員 土屋雄二 (2) 委員 伊藤英雄 (2) 副委員長 沢登英信 (2) 委員長 田坂富代 (2)

産業厚生委員会



委員 森 温繁 (6) 委員 大黒孝行 (3) 委員 増田榮策 (4) 委員 土屋 忍 (2) 委員 藤井六一 (2) 副委員長 岸山久志 (1) 委員長 鈴木 敬 (2)

議会運営委員会

委員長
副委員長
委員

藤井六一 (2)
伊藤英雄 (2)
沢登英信 (2)
土屋雄二 (2)
田坂富代 (2)
土屋勝利 (3)
森 温繁 (6)

(は期数を表す)

議会を傍聴しましょう

市議会へのご意見ご要望をお寄せ下さい



3月定例会審議結果

| | | |
|-------|--|------|
| 報第1号 | 専決処分の承認を求めることについて(平成20年度下田市一般会計補正予算(第9号)) | 承認 |
| 議第1号 | 教育委員会委員の任命について | 同意 |
| 議第2号 | 静岡県市町総合事務組合を組織する地方公共団体の数の減少及び規約変更について | 原案可決 |
| 議第3号 | 静岡県後期高齢者医療広域連合を組織する地方公共団体の数の減少について | 原案可決 |
| 議第4号 | 静岡県地方税滞納整理機構を組織する地方公共団体の数の減少について | 原案可決 |
| 議第5号 | 下田市介護従事者処遇改善臨時特例基金条例の制定について | 原案可決 |
| 議第6号 | 平成20年度下田市一般会計補正予算(第10号) | 原案可決 |
| 議第7号 | 平成20年度下田市公共用地取得特別会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 議第8号 | 平成20年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第4号) | 原案可決 |
| 議第9号 | 平成20年度下田市介護保険特別会計補正予算(第3号) | 原案可決 |
| 議第10号 | 平成20年度下田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 議第11号 | 平成20年度下田市集落排水事業特別会計補正予算(第2号) | 原案可決 |
| 議第12号 | 平成20年度下田市下水道事業特別会計補正予算(第4号) | 原案可決 |
| 議第13号 | 平成20年度下田市水道事業会計補正予算(第3号) | 原案可決 |
| 議第14号 | 市道の認定について | 原案可決 |
| 議第15号 | 訴えの提起について(アイフル株式会社) | 原案可決 |
| 議第16号 | 訴えの提起について(株式会社武富士) | 原案可決 |
| 議第17号 | 訴えの提起について(プロミス株式会社) | 原案可決 |
| 議第18号 | 訴えの提起について(株式会社エイワ) | 原案可決 |
| 議第19号 | 訴えの提起について(株式会社SFコーポレーション) | 原案可決 |
| 議第20号 | 下田市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について | 原案可決 |
| 議第21号 | 下田市特別職等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定について | 原案可決 |
| 議第22号 | 下田市廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定について | 原案可決 |
| 議第23号 | 下田市国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定について | 原案可決 |
| 議第24号 | 下田市介護保険条例の一部を改正する条例の制定について | 原案可決 |
| 議第25号 | 平成21年度下田市一般会計予算 | 原案可決 |
| 議第26号 | 平成21年度下田市稲梓財産区特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第27号 | 平成21年度下田市下田駅前広場整備事業特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第28号 | 平成21年度下田市公共用地取得特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第29号 | 平成21年度下田市国民健康保険事業特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第30号 | 平成21年度下田市老人保健特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第31号 | 平成21年度下田市介護保険特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第32号 | 平成21年度下田市後期高齢者医療特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第33号 | 平成21年度下田市集落排水事業特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第34号 | 平成21年度下田市下水道事業特別会計予算 | 原案可決 |
| 議第35号 | 平成21年度下田市水道事業特別会計予算 | 原案可決 |
| 発議第1号 | 「地震防災対策強化地域における地震対策緊急設備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長に関する意見書の提出について | 原案可決 |
| 発議第2号 | 障害者自立支援法の見直しを求める意見書の提出について | 原案可決 |

5月臨時会審議結果

| | | |
|-------|--|------|
| 報第2号 | 専決処分の承認を求めることについて(平成20年度下田市一般会計補正予算(第11号)) | 承認 |
| 報第3号 | 専決処分の承認を求めることについて(平成20年度下田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第5号)) | 承認 |
| 報第4号 | 専決処分の承認を求めることについて(下田市税賦課徴収条例の一部を改正する条例の制定について) | 承認 |
| 報第5号 | 平成20年度下田市一般会計繰越明許費繰越計算書の報告について | |
| 報第6号 | 平成20年度下田市下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書の報告について | |
| 報第7号 | 平成20年度下田市一般会計事故繰越し繰越計算書の報告について | |
| 議第36号 | 平成21年度下田市一般会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 議第37号 | 平成21年度下田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 議第38号 | 平成21年度下田市下水道事業特別会計補正予算(第1号) | 原案可決 |
| 発議第3号 | 下田市議会委員会条例の一部を改正する条例の制定について 議長選挙・副議長選挙 常任委員会委員及び議会運営委員会会員の選任について | 原案可決 |

総務文教委員会

委員長 土屋雄二
副委員長 田坂富代
委員 沢登英信 伊藤英雄
土屋誠司 増田 清
森 温繁

三月定例議会

本委員会に付託された議案は、平成二十年度下田市一般会計補正予算、平成二十年度下田市公共用地取得特別会計補正予算、平成二十一年度下田市一般会計予算、平成二十一年度稲梓財産区特別会計予算、平成二十一年度公共用地取得特別会計予算、条例関係では下田市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定について、下田市特別職等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定についての二本の条例改正また訴えの提訴についての審査がありました。



平成二十年度一般会計補正予算

企画財政課関係では合併対策事業、地域活性化生活対策臨時交付金について意見が出されました。

合併対策事業の減額は十

二月議会で審議された基幹系電算システム統合調査委託が未執行となったことによるもので、実行できない予算作成をしたのではない等の意見が出されましたが、十二月の原案修正の段階では合併を推進する市長の政治姿勢を反映した上でこのことで、最終的に年度内に南伊豆町や松崎町が再度上程する見込みがなくなり減額となったとの答弁がありました。地域活性化生活対策臨時交付金の使い方が交付金の趣旨とは違うのではないかとの意見に対しては、地方再生計画の主旨に合ったもの、十月三十日に閣議決定された生活対策に

合ったもので対応したとの答弁がありました。

総務課関係では足額給付

金に対して、給付時期をもっと早くすることが出来ないかとの意見が出され、出来るだけ早く対応したいと答弁がありました。税務課関係では、滞納者の定額給付金を差し押さえするののか等の意見が出され、控えたという答弁がありました。

平成二十一年度一般会計予算

企画財政課関係では、歳入に係わる質疑が主なもので、その他電算システムでの経費が毎年膨らむが如何という質問に対し、国の制度改正があるとシステム改修をしなくてはならず、法改正があると圧倒的な経費の膨らみが出てくるとの答弁がありました。

生涯学習課関係では公民館や成人式のあり方等の質疑の他、市史編さん事業に関する、平成十九年度で完成するはずのものが完成できず、二十年度に明許繰越したものがまた完成できない

という事で、事故繰越ということになったとの説明がありました。

学校教育課関係では学校図書費、保育料、学校統合準備委員会の運営について質疑がありました。

市民課関係では、自主防災や戸籍電算化事業等の質疑がありました。



条例改正

委員会に付託された条例改正は二本で、下田市個人情報保護条例の一部を改正する条例の制定については、統計法の全部改正に伴い所要の規定の整備を行うための改正、下田市特別職等の給与の特例に関する条例の一部を改正する条例の制定については、平成二十一年度の予算編成は、深刻な財源不足に対応するために、職員の給与カットをせざるを得ない経緯があり、この条例改正が行われました（人件費削減額は、特別職一般職を合わせ、八千六百九十五万二千円でした。）

五月臨時議会

五月臨時議会で総務文教委員会に付託された議案は、平成二十一年度下田市一般会計補正予算です。

審査の主な内容は、緊急雇用創出予算に係わる事業です。企画財政課関係では、ほとんどが国や県からくる予算の事業で、財政調整基金を五百万円取り崩したものは、どこに使われるのかという意見が出され、住宅リフォーム振興助成金の財源として取り崩したと説明がありました。

学校教育課関係では、緊急雇用創出分として特別支援教育体制推進事業の臨時雇い賃金に充てられたことにたいしてLD学習障害（ADHD）（注意欠陥多動性障害）の子どもさんがいるのは当初からわかっていたはず、本来なら当初予算として計上すべきではないか等の意見が出され、要求通りの予算が確保できず、六月補正で対応するつもりであったが、今回の緊急雇用で対応したとの答弁でした。

産業衛生委員会

委員長

土屋 忍

副委員長

岸山久志

委員 藤井六一

鈴木 敬

増田榮策

大黒孝行

土屋勝利

三月定例議会

田駅前広場整備事業・国民健康保険事業・老人保健・介護保険・後期高齢者医療・集落排水事業・下水道事業の各特別会計予算と水道事業会計予算を審査しました。

平成二十年度 一般会計補正予算

福祉事務所所管の子育て応援特別手当は多子世帯の援助を目的として国の第二次補正予算が成立したのを受け、定額給付金の時期に合わせ三歳から五歳の子供で第二子以降の子供に一人当たり三万六千円が支給されるものです。今回の補正予算では千六十万一千円が計上されました。

下田市廃棄物の 処理及び清掃に 関する条例の 一部を改正する 条例の制定に ついて

環境対策課所管のこみ収集車両購入費八百八十万円は国の臨時交付金七百五十万円で措置されました。

国の家電リサイクル法の改正に伴い今回条例が改正され、エアコン、ブラウン管式テレビ、電気冷蔵庫、電気洗濯機の家電四品目にテレビはブラウン管式に液晶式とプラズマ式が追加され、電気冷蔵庫に電気冷凍庫も追加され、電気洗濯機に衣類乾燥機が追加されました。収集手数料は今まで通りで、エアコンが一台千五百円、テレビ(ブラウン管式・液晶式・プラズマ式)が一台千円、電気冷蔵庫及び電気冷凍庫が二千円、電気洗濯機及び衣類乾燥機が一台千円で、リサイクル券を郵便局で求め清掃事務所などに持ち込んで処理する必要があります。

下田市介護保険 条例の一部を 改正する条例の 制定について

介護保険料は三年に一度見直されていますが、今議会において、平成二十一年度から二十三年度の保険料率が改正されました。保険料は第一段階から第六段階まで分かれていますが、保険料基準額は平成十八年度から二十年度まで年額三万八千四百円(月額三千二百円)でしたが、平成二十一年度から二十三年度まで年額三万三千元(月額二千七百五十円)に減額となりました。

平成二十一年度 一般会計予算

産業振興課所管の須崎漁港水産基盤整備事業では総額九千五百二十万円が計上され、その内須崎漁港水産基盤整備工事に七百八十三万円が予定されています。この一連の工事は平成二十三年に完成の予定です。

委員からは「自然の景観を大きく変えてまでコンクリートで固める必要があるのか」との意見が多く出されましたが、「漁業関係者からの要望も多く、工事は継続工事であり、計画は完成させたい。完成すれば下田の漁業に多くの効果が得られると考えている」との当局の答弁がありました。

福祉事務所所管の地域子育て支援センター建設事業は、当初予算で設計業務委託費として百七十万円が計上されました。この事業はおよそ三十坪の施設を敷根に建設する計画で、0歳から三歳児を対象に子供二十人、親二十人を収容出来、週五日間、一日五時間第三保育所などで実施している「おもちゃばこ」月一回の「ひよこサロン」や「あそびば」などを通し、子供どうしの交流、お母さん方の交流また、子育ての情報交換や仲間づくりの場とするものです。委員会では現地視察も行いましたが、現在計画されている所は、子供達の安全を十分考え再検討

本委員会に付託された議案は、定例会前半の三月六日に、介護従事者処遇改善臨時特別基金条例の制定、平成二十年度一般会計補正予算、国民健康保険事業・介護保険・後期高齢者医療・集落排水事業・下水道事業の特別会計補正予算、水道事業会計補正予算を審査、市長の施政方針、一般質問の後、十三日より二十三日の間、市道の認定、廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例の制定、国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定及び平成二十一年度一般会計予算、下



すべき、スポーツセンターの駐車場の一部を使用すべきとの意見が出されました。観光交流課所管の下田公園あじさい園整備事業は、

県の補助金五百万円を受け、一千万円の事業を実施する計画となっていますが、委員会として「看板類におよそ六百万円を予定している。誘導標識は二十三カ所で一基当たり十万円から十三万円は高すぎる。もっと抑えて他にしなければならぬ整備に予算を向けるべき」などの意見が出されました。

五月臨時議会

五月臨時議会で本委員会に付託された議案は平成二十一年度一般会計補正予算、後期高齢者医療特別会計補正予算、下水道事業特別会計補正予算でした。

小児救急再開

健康増進課所管の第二次救急医療事業では、小児救急を共立湊病院で受ける事が出来ない休止していま

したがこの四月より再開する事が決まり、運営費補助金として百三十八万三千元が計上されました。

環境対策課所管では国の緊急雇用創出事業の予算を受け、環境衛生事業として浄化槽台帳整備、環境美化推進事業として市内の不法投棄の処理など臨時雇い賃金におよそ五百万円が計上されました。

産業振興課所管では、緊急雇用創出分で市内の農道・林道などの整備に臨時雇い賃金としておよそ二百万円が計上、市単独事業として市内経済活性化事業として住宅リフォーム振興助成金に一千万円、プレミアム

付き商品券発行事業補助金に六百九十万円が計上されました。また、ふるさと雇用再生対策事業の地場産品販路拡大事業委託に四百六十二万五千円が計上されました。



住宅リフォーム振興助成金は、住宅をリフォームしようとする人にその工事費の二割を市で助成するもので、限度額は百万円の二割の二十万円です。これは市内建設業関係の経済活性化のため助成するものですが

多くの委員から「交付要綱が煩雑で申請者や業者にわかりやすく申請し易いよう改めるべき」との意見が出されました。また、地場産品販路拡大事業委託では、「地場産品といっても何を

売るのはつきりしない」「販売場所をバイステージの一角に備品購入費五十万円です整備すると言っているが、その金額で何が出来るのか」など不安を唱える意見が多く出されました。

下水道事業では昨年実施した下水道接続に七万円を助成する事業が評判良く、比較的多くの加入者が有ったため今年は三万円に減額の予定をもう一年継続し七万円の助成をする事となったものです。



三月定例会 議員一般質問

岸山久志（清正会）

Q 下田は有名な町だと思っていたが、今の若い人に聞くと決してそうでない。下田のよさを全国的にアピールしなければならぬがいかがでしょうか。

A 若い人が下田を知らないなんてことはないですよ。知っています。結構若い人が歩いてるじゃないですか。今受け入れられているような流れが来ているので、この辺をうまくPRしていくことは必要だと思う。コマールシャルベースでやるには何千万円、億の単位なので、今の市の状況ではとてもそんな予算はとれない。

Q ベイステージは旧町内にお客さんを流す一つの拠点という話でしたが、マップ程度しかありません。そうでなく旧町内に行くところというこんな事がありますという案内がほしいと考えますが、いかがでしょうか。

A 来られる方は、素通りする形があるうかと思えます。結構町内へ流れていきます。色々な情報を得て来ていますから、町内へ行っていないという事はないと思っております。ただそれ以上の導入の仕方というのは考えていきたいと思っております。

鈴木 敬（政新会）
施政方針について
Q 「予算編成の基本的な考え方」において、「雇用の確保」「新たな事業の創出」「企業の経営安定に向けた支援策」を早急に講じると述べているが、具体的にはどのように実現していくのか。

A ふるさと雇用再生特別交付金事業で二件、三千万円。緊急雇用創出事業で十七件、一億二千万円の事業費を県に要望し、雇用の問題に取り組んでいきたい。緊急経済対策について

Q プレミアム商品券の発行は、少しでも市内にお金を流通させることを目的とした事業である。その他、耐震工事への助成金や、下

水道接続工事に対する補助金継続は、市内に仕事を生み出すための事業である。是非とも実施して欲しい。

A プレミアム商品券に一千万円の補助金を出す事の経済的効果がどれくらいあるのか、行政側の責任となる。会議所や関係者の意見がどのようになるといいたいか推移を見ていきたい。藤井六一（民友会）

Q 下田は観光の町。市民は観光関連収入で安定した生活が出来る観光行政を望んでいる。今後どんな観光地づくりを目指すのか。

A 観光地間の競争に取り残されているという考えはない。観光客も増えているし上向いている。観光の目標は海と温泉と食をキーワードにした海洋浴の里づくりだ。まち歩きができる観光地にしていきたい。

Q 市民経済の落ち込みは厳しく壊滅寸前の状態だ。人口が少なく消費は伸びない。わずかばかりの消費は大型店や通販などに流れている。地域経済を活性化させるには安定人口を増やす

ことだと考えるが。

A 人口減少社会の中で、安定人口を増やすという考え方はこれからは成り立たない。今後は交流人口を増やす施策が必要だ。賀茂地区一市五町で里山生活応援クラブを設置し、自然のすばらしい南伊豆地域に住んでくださいと首都圏でPRを始めた。すでにそんな時代に入っている。

Q JGFAが多額の投資をしカジキミュージアムを作ってくれたが、誘客対策が採られていないのではないか？

A ポスター等で案内をしているが、足を伸ばして頂けるような施策をとるよう、アドミニスターに伝え改善を図りたい。

Q 小学校のマイクロバス使用について、少人数校では気軽に使えるため気軽に社会科見学が出来、大人数校では交通手段が制限されるため社会科見学の回数が減ったり自己負担が出る不公平な状況に対する対処は？

A 不公平改善に向けて学校長にも聞き、実情に応じたという対応が考えられるか考えたい。

Q どの小学校も図書が足りない状況にある。調べ学習もままならない状況。学校図書室のあり方をどう考えるか？

A 将来的にはネットワーク化し、事前に必要な本を集めて総合学習等に対応していきたい。

Q 両中学校を廃止し平成二十二年四月、稻生沢中学校に新設する統合案について住民合意をどのように図られたのでしょうか。

A 両地区とも保護者や住民の方と膝を突き合わせ懇談会を開いて来ました。子供達の教育環境を良くすることなのでご理解を願います。

Q 統合を先に決めておいて、理解を押し付ける結果となっている。通学費や通学時間・交通機関についてはどうなっていますか。

A 落合浄水場前の道路が危険なので稲梓地区の生徒はバス又は電車通学とした。現行の通学費補助は中学生半額市費負担ですが、全額市費負担とします。バスやその運行時間帯については、バス会社と交渉中です。

Q 統合の結果、教育環境が悪化するのでは？統合がまた統合を呼びふるさとを壊します。

小さくともキラリと輝く稲梓中学校を残すべきです。土屋誠司（至誠会）

Q 中学校統廃合問題については教育委員会の権限である。しかし、市長が教育委員会会議に出席し学校再編の方針を説明した。市長が統廃合にこだわっている。教育委員会も急がねば。」と教育委員会の議事録にある。市長が学校統廃合を教育委員会に要請したという多くの情報があるが事実か？

A 保護者からの「多様な部活が無い」という話を、教育長に話したのは事実。しかし、この時点で統合を

どうこうという話はしていない。

Q 「学校統合が理解され賛成が増えてきている」として、教育長は来年4月の統廃合の準備を進めている。これは稲梓教文会のアンケート結果や六百名余からの統合再検討を求める陳情を無視している。賛成が増えていくという判断の根拠は何か？

A 陳情等は重く受けとめていきたい。本当に反対者が大多数なのかは見解の相違。地域に入って十分説明をすれば、半数以上の賛成を頂けると考えて進めて来た。

人事案件

教育委員会委員の任命
山本祐子委員が平成二十一年三月十四日任期満了となり、委員に欠員が生ずるため、臼井ふく子氏（河内二五七番地）を選任することについて、同意いたしました。

なお、平成二十一年三月十五日より教育委員会委員に就任いたしました。

障害者自立支援法の見直しを求める意見書

平成18年に施行された障害者自立支援法については、現在、法施行3年後の抜本的見直しに向けて検討が進められており、その中では、見直しの全体像や、介護保険制度との関連、利用者負担の在り方などが議論されていると理解している。

については、自立支援法施行に伴い、利用者負担などに係る今日まで障害者団体などから寄せられた厳しい声などを十分に踏まえ、以下の点について、適切な見直しを行われるよう、強く要請します。

記

1. 障害者自立支援法の見直しに当たっては、介護保険制度との統合を前提とせず、あくまでも障害者施策としての在るべき仕組みを検討すること。
2. 最大の問題となっている利用者負担については、法の規定を見直すこと。
3. 新体系への移行が円滑に進まない状況を踏まえ、施設利用要件の抜本的な見直しを行うこと。
4. 障害者の範囲について、発達障害や高次脳機能障害が自立支援法の対象となることを明確化し、障害程度区分についても、身体、精神、知的、発達障害などの障害特性を反映するものとなるよう見直しを行うこと。
5. 地域生活支援事業について、障害者が地域で暮らすために不可欠な事業は、自立支援給付とし、移動支援やコミュニケーション支援の充実を図ること。
6. 福祉的就労分野での利用者の負担解消について、関連施策との関係を含め議論を深めること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成21年3月24日

衆議院議長、参議院議長
内閣総理大臣、厚生労働大臣

静岡県下田市議会

「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長に関する意見書

予想される東海地震に備えて、地震防災対策強化地域の関係地方公共団体は、地震対策緊急整備事業計画に基づき、各般にわたる地震対策を鋭意講じているところである。

この計画は平成21年度末で期限切れを迎えるが、限られた期間内に緊急に整備すべき必要最小限の事業をもって策定されていることから、今後実施すべき事業が数多く残されている。

また、近年の国内外における大地震により得られた教訓を踏まえ、公共施設の耐震化、津波防災施設・避難地・避難路の整備、各種防災資機材の整備等をより一層推進する必要性が生じている。

したがって、東海地震による災害から地域住民の生命と財産の安全を確保するためには、地震対策緊急整備事業計画の充実と期間の延長を図り、これらの事業を迅速にかつ的確に実施することにより、地震対策の一層の充実に努めていかなければならない。

よって国においては、地震対策緊急整備事業計画の根拠となっている「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」の延長について、特段の配慮をされるよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成21年3月24日

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣
財務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、農林水産大臣
国土交通大臣、内閣府特命担当大臣（防災）
消防庁長官、林野庁長官、水産庁長官

静岡県下田市議会

編集委員会

委員長 田坂富代
副委員長 岸山久志
委員 沢登英信
委員 鈴木敬
委員 土屋忍



(富)

この議会だよりから、新メンバーで編集をスタートいたしました。と同時に、少しでも市民の皆さんに読んで頂ける紙面にと、各議員の一般質問の要旨を、Q&Aという形で掲載することになりました。

新しい試みですので、試行錯誤しながらとなりますが、編集委員以外の議員の皆さんにもご協力頂きながら、頑張っていきたいと思っております。

ご意見や感想などございましたら、ぜひ編集委員会までお寄せください。

編集後記